

町小だより

令和5年
7月26日
No. 677
御免町小学校

失敗したっていい

校長 相澤 祐助

12年ほど前、私は新潟県少年自然の家で社会教育主事として勤務していました。胎内市にある県の社会教育施設です。県内外から宿泊等の体験のために多くの小中学生が利用していました。その県少年自然の家の看板メニューは「カヌー体験」です。胎内川の河口で、自分の力でカヌーを操作する冒険・チャレンジメニューです。

7月のある日、〇〇小学校の5年生がカヌー体験にやって来ました。私ともう2人の指導員でカヌーの指導に当たっていました。私はカヌー集団の最後尾を担当し、流されたり、チン（沈没）したりする子がいれば対応する役割でした。

体験の後半、終わりころになった時です。私の目の前の女子（Aさん）が、ふらふらしました。「あわてないで、遠くの前を見なさい！」と指示を出したのですが、パニックになってしまい、「チン」してしまいました。すぐに、その子の側に寄り、私のカヌーにつかまるように声をかけました。「どうしよう、みんなの前でチンしてしまった。もう、だめだー。学校に行けない・・・（涙）」「大丈夫さ、誰だってチンすることはある。チンという体験は、なかなかできないよ」救助艇のボートが来るまでずっとその子は泣いていました。その時です。胎内川の橋の近くから、「Aさーん、大丈夫ー？」「こわくなかったー？」「助けてもらって良かったー、安心したー」という見学していたクラスの仲間の声でした。「ほら、仲間が心配しているよ。失敗したことじゃなく、あなたの身体のことを心配しているんだ。元気だよーって手を振ってごらん」「泣きじゃくっていたその子は、仲間に手を振りながらも表情はまだ硬いようでした。

カヌーの後片付けを終えて、自然の家に戻りました。すると、玄関で〇〇小学校の5年生の担任の先生が私を待っていたらしく、私に声をかけてくれました。「相澤さん、今日は本当にありがとうございました。さっき、チンしたAさん、学校では成績が優秀で、何一つ失敗したことがない子でした。みんなの前で失敗をするなんていうことはありませんでした。でも、このチン、という体験で、ふっきれたようです。誰もが失敗をすることはある。その失敗をみんなで支え合って、乗り越えていく、そんな体験になったようです。いま、部屋に戻って、笑顔で仲間と一緒に、キャンプファイアの準備にはいりました」

さあ、明日から夏休みになります。長い休みになりますが、子どもたちに何か一つでいいので「冒険・チャレンジ」させてみたいですね。失敗は必ずあると思い、その失敗を乗り越えていく粘り強さを体感させてほしいと願っています。

1学期は今日で終了となります。運動会、修学旅行、校外学習、水泳授業と徐々にウイルス禍の時にできなかったことが戻りつつあります。多くの課題はありますが、保護者の皆様、地域の皆様の御支援で乗り越えることができています。皆様に感謝しつつ1学期を締めくくりたいと思います。どうぞ有意義な夏休みをお過ごしください。